



第1学期を終えるにあたって

子どもたちが育ててきた朝顔のつるが背丈ほどに伸び、種をふくらませています。

本日で令和2年度第一学期を無事に終了いたしました。この4ヶ月間、保護者、地域、関係諸団体の皆様に支えていただき、6月の学校再開後も、子どもたちが明るく落ち着いた気持ちで、学校生活を送ることができましたことに深く感謝申し上げます。



いよいよ子どもたちにとって楽しい夏休みが始まります。7月31日(金)から8月20日(木)までの21日間の夏休みを、今までの学習や生活を見つめなおし、第二学期に備え、志を新たに準備する機会としてほしいと思います。この4月以来、子どもたちは毎日の学習やさまざまな取組を通して、力を付けてきました。「先生や友だちとたくさん勉強した。」「手を挙げて発表するようになった。」「友だちと仲よく過ごした。」「やさしい気持ちが大切さだと分かった。」など、一人一人が自信を深めています。後日お渡しする通知表を参考にいただき、お子様をよりよく伸ばすための話題と励ましの材料にしていいただければと思います。

作家の五木寛之さんが執筆された「大河の一滴」という本があります。苦しくてとてもつらい現在の状況を嘆いているばかりではいけない。その状況の中で自分には何ができるかを考え、行動することが大事だという中国の物語や、命が消えてしまいそうな恐ろしい厳しい状況の中でさえ、ちゃんと「おはよう」や「いただきます」などの挨拶ができるマナーやエチケットを忘れない生き方が人々の命と希望をつないだという第二次世界大戦下での実話が紹介されています。22年前の作品ですが、手に取って読み返す人が増えているそうです。お手伝いをする、規則正しい生活に努める、苦手な学習を克服する、さまざまな種類の本を読むなど、自分にできることや自分で決めたことをこつこつと粘り強く継続して取り組むことの大切さを終業式で話しました。「おはよう」「いただきます」などの挨拶についても触れましたので、お家でも話題にしていいただけるとありがたいです。

子どもたちが何よりも楽しみにしている夏休みですが、この時期、子どもの命や安全に関わる事故や事件が毎日のように報道されます。ご家庭におかれましては、学校からの資料もご活用いただき、夏休みの安全な過ごし方や命の大切さについて今一度お子様とお話しいただく時間をとっていただきますようお願いいたします。

明日から子どもたちの生活の場は、家庭や地域が中心となります。安全、安心で、楽しく充実した夏休みとなりますよう、引き続きご協力、ご支援をお願い申しあげ、第一学期終了のご挨拶とさせていただきます。

校長 藤原 佳弘
教職員 一同

